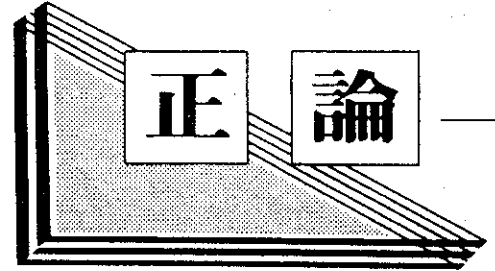


二期分けて受験生数倍増

新学年が始まったことで、教育界の大きな話題は、何よりとも、来年からの入試大争ひだ。国立大学の入試期日を二期に分けて実施する。

正論



留意を求めた。

国立大学の受験倍率が、現在の三倍から六倍に倍増する。三校、四校の受験倍率が倍増する。国立大学の入試が一期二期に分かれていたときの倍率が六倍あり、共通一次試験の導入の際、入試期日を一本化して、その半減したにもかかわらず、元々倍率は倍増を遂げた。

国立大学の受験倍率が、現在の三倍から六倍に倍増する。三校、四校の受験倍率が倍増する。国立大学の入試が一期二期に分かれていたときの倍率が六倍あり、共通一次試験の導入の際、入試期日を一本化して、その半減したにもかかわらず、元々倍率は倍増を遂げた。

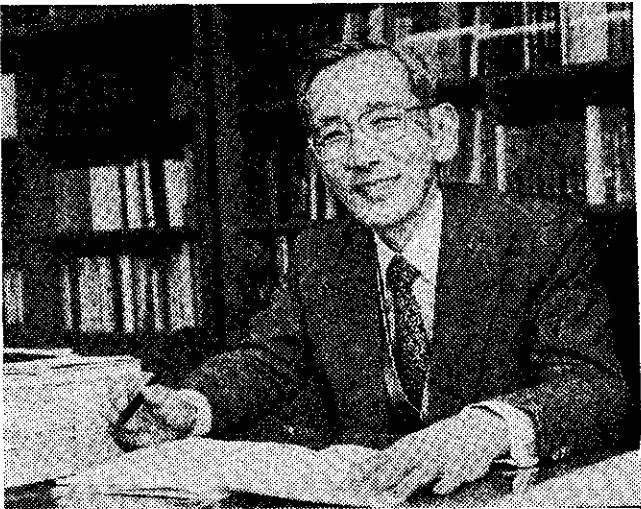
入試改革と教育の国際化

一次、二次試験運用に配慮を

日本学術振興会理事長 木田 宏

された期間内に合格を判定しなければならぬ。入学試験を二期に分けて実施する。受験生数倍増の懸念を払拭し、受験生全体の試験を公平にする。試験の科目数は限定され、その出題、採点も統一される。

試験に強い者が数校を受験すれば、強い者はそれ以上の校数を受験してまわらなければならないという優勝劣敗の現実が、今日の受験過熱を生んでいるのである。この方向は、当然に強まることとなるであろう。



入試改革が競争倍率を増やし、試験科目を減らす方向に進むほど、高校における学習内容の偏りは大きくなっていくであろう。入試の試験科目とその在り方が、高校教育の内容と方法に、極めて大きな影響を及ぼすからである。

それゆえ、一方において選択の幅を広げるとしても、一方において必要な学習を求める方法が講ぜられなければならない。その二、一般的な学習問題を充たす一次試験と、本人の能力、適性を見出すための二次試験の運用について、私立大学を含めた大学関係者の適切な配慮が求められるのである。

競争の自由、選択の自由を十分に保障するものであって、一向に差支えないという立場もある。しかし、この方向を何の配慮もなく進めるとは、臨時教育審議会が最も強く是正しようとしている過熱した受験競争、偏差値偏重断片的な記憶中心の教育を、かえって強化するに及ぶ。

競争の自由、選択の自由を十分に保障するものであって、一向に差支えないという立場もある。しかし、この方向を何の配慮もなく進めるとは、臨時教育審議会が最も強く是正しようとしている過熱した受験競争、偏差値偏重断片的な記憶中心の教育を、かえって強化するに及ぶ。

これからの国際社会で活躍できる日本人の育成は、将来の国の存立にも係わる重要な課題である。臨時教育審議会は、国際化への対応を求めて、国際性豊かな日本人の育成をめぐり、帰国子女、海外子女の教育について、さらに留学生の受け入れについても、さまざまな改善策を求めようとしている。